

平成 18 年度 二松学舎大学国際シンポジウム 東アジアの対話

「東アジア・トライアングル（日・中・韓）のダイナミズムと中国市場を機軸とした関係強化」

国際政治セッション 「東アジアトライアングル（日・中・韓）のダイナミズム」  
発言要旨

法政大学 趙 宏偉

江沢民、胡錦濤が推し進める東アジア統合、ユーラシア統合

王毅駐日中国大使「20世紀の1990年代に入ってから、さまざまな形の地域とサブ地域協力が続々現れ、次第に広分野、多次元、重層的に支えられ、官民共同の望ましい態勢になりつつある。東南アジア諸国連合（ASEAN）+中日韓と上海協力機構という2つの中心的メカニズムが深く発展してきた」（『アジア地域協力と中日関係』『国際問題』日本国際問題研究所、4頁）。

なお、この2つの中心的メカニズムを凌駕して広大なユーラシア統合を目標とする中口印協調メカニズムは、3 国外相会談、3 国首脳会議といった形で築かれつつある。

中国は「国際関係新秩序」を唱え、それはハードパワーを機軸とする伝統的な安全保障観のかわりに相互信頼、相互利益、平等、協力を基本とする新安全観を確立、一極体制と単独主義に対峙して多極化、民主化、多様化の国際新秩序を築き、地域統合と「和諧地域と和諧世界」を目指す中で、中国の「平和的台頭」を実現させるという世界戦略である。

「親戚になった」韓国

劉建超中国外交部新聞局長「韓国と中国の関係は友人の関係ではなく、親戚の関係だ。韓中間のコミュニケーションには見える壁であれ、見えない壁であれ、壁というものがない。韓国国政広報処が調査をしたことがあったが、中国人の90%が韓国人に好感を持っているという結果が出たという。このような調査結果は実に得難いものだ。おそらく、韓国人も中国人に対して似たような数値の好感を持っているだろう。国交正常化から14年で韓中関係がこのように発展するとは誰もが予測できなかったことだ。盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領と胡錦濤主席は友人の間柄だ。2人とも韓中関係の現状に満足している。北朝鮮核問題とミサイル問題で韓国と中国は共通した認識を有している。」（『朝鮮日報』2006年8月8日）

中韓関係は主にここ5年間の対日・対北朝鮮外交の中、「親戚関係」に進化した。

「敵対国」と化する日本

アフリカ連合（AU）加盟10カ国の首脳級委員会のカバー委員長（シエラレオネ大統領）が05年1月31日の臨時首脳会議に提出した非公開の報告書によると、中国側はカバー氏と会談した際、AUの常任理入りを支持する方針を示した上で、安保理入りを旨とする日本を念頭に「アフリカが中国と敵対する国の常任理入りを支持する投票をした場合は、中国の立場は変わる」と圧力をかけた（『読売新聞』05年11月2日）

主にここ5年間の小泉政権期、中国の中で日本に対する敵国意識が育った。中国からみると、日本政府は歴史認識問題、台湾問題という両国関係の政治基礎にかかわる原則問題をはじめ、北朝鮮問題、エネルギー問題、領土問題、中国と他国の関係、地域統合問題な

ど、あらゆる分野において、中国に対抗・挑発する政策を取ってきた。

中国は小泉政府と厳しく対決していたが、前述した和諧地域、和諧世界を目指す世界戦略が基本にあり、それに立脚した対日基本政策を持ち続けている。「中日両国はW I N・W I Nの関係を築き、欧州における仏独のように、東アジア統合に手を携わって貢献すべきである」と人民代表大会外交委員会委員長・外交学院院長呉建民は、繰り返して訴えてきた。中国は日中関係について東アジアにおける両雄体制というビジョンを提案しているとみることができよう。

#### 「心の問題」で動揺中の日本

理性からは、「今なら、日本はコミュニティーづくりに指導力を発揮できる」(田中均、共同通信社配信、新年特集、06年1月1日)と、要は今このところに追いかけていかなかったら地域統合の流れから取り残されてしまうときちんと見通している。

しかしい、「心の問題」、感情の問題からは、「あんな憎らしい中国に仲良くしてやるものか」と自分を許せないでいる。

もちろん、人間の感情は一極主義のような単純のものではありえない。中国のことを親しむ感情も日本人にある。知ったばかりの情報であるが、安部首相の昭恵夫人は早く今年の5月末にもひそかに北京を訪問した。そして9月1日に総裁選出馬を宣言した安部官房長官は多忙にもかかわらず、翌日夕方からチャイナドレスに着替えた夫人に連れられて、中国の画家書道家訪問団と2時間ほど食事をしながら談笑していた(『中文導報』06年11月9日)。話によると、安部夫人は中国文化にかなりはまっており、それに安部首相は大変な愛妻家だそうである。後の安部首相の中国訪問等の振る舞いは『朝日新聞』より「君子豹変」(社説)と揶揄されたが、それは「内助の功」も一助であったからであろう。

では、最後に、終わりの言葉に変えて、日中関係はW I N・W I Nの関係に発展していくものだと明るく予測しておきたい。